

<道端に落ちた種>

マルコ4：1～9

聖書の中に出て来る有名な^{たと}譬え話

放蕩息子／失われた羊（99匹を置いて1匹を捜しに行く）／良きサマリヤ人 etc

- ◆イエス・キリストは、大切な真理を語る時に^{たと}譬えを用いた。何故？
神のことばを受け取ろうと、心を傾ける人だけがわかるように。
群衆の中には、神を求める人ばかりではなく、批判的に見ている人や、自分の必要が満たされればよいと考える人たちなど、色んな人がいた。
- ◆「聞く耳のある者は聞きなさい」 9節
求める心、心へりくだって聞こうとする(謙遜)人。聞いて受け取る心を持つ人。
- ◆^{たと}譬え話の価値は、聞いた人自身が、自分で意味を考えさせられるところにある。

<道端>



<岩地>



<いばら>



<良い地>



種は神のみことば。土地は人の心の状態。その人の在り方。

◆種には実を結ぶことのできるいのちがあったが、良い地に落ちたものだけが育って実を結ぶ。他の地に落ちたものは根を下ろさず、たとえ芽を出してもすぐ枯れたりいばらに押し塞がれ負けてしまう。

人の心は、もともとは感じやすい柔らかいもの。しかし・・・

道端とは？

- ・人にだまされたり、裏切られたり辛い目に遭ううちに、いつの間にか人の善意や好意が素直に受け取れない、固い心になっていく。
- ・自分の得た経験や知識だけしか信じず、他は必要ないとはねつける、頑固、頑なさ。自分の義をがっちり握っている人。

辛い経験をした人、他を頼らず自力で頑張ってきた人皆が、踏み固められた固い土地のような心なのだろうか・・・？

女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか。母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。たとえ、女たちが忘れようとも わたしがあなたを忘れることは決してない。

イザヤ49：15（新共同訳）

蒔かれた種は、神のことば。良い実を結ばせるいのちがある。

あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。

『人はみな草のようで、その栄えは、みな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。しかし、主のことばは、とこしえに変わることがない。』

とあるからです。あなたがたに宣べ伝えられた福音のことばがこれです。

第1ペテロ1:23～25